

2011年1月24日

東京大学 起業・大学発ベンチャーセミナー
「東京大学における起業家教育の振り返りと将来への課題」

アントレプレナー道場卒業生の進路に関する 調査報告

東京大学 産学連携本部
株式会社ユニファイ・リサーチ 五内川拓史

1. 調査の背景

- ・**タイミング**

アントレプレナー道場が6年目に(2010年)

- ・**参加者数**

上級コースで100名を超える累積参加者

- ・**起業家教育に関するデータ蓄積の重要性**

過去の事例:

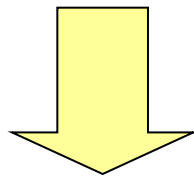
大学の企業教育の状況／教育メンタリングの方法・効果等

→ 起業家教育の機会を得た学生や若い研究者の
その後の進路、経験等に関するデータが不足している

2. 調査の目的と方法

<調査の目的>

- **ファクト収集**
- **効果の分析と評価**
- **課題の抽出と今後への示唆**
- **本部と卒業生の間でのフィードバック、コミュニケーション**

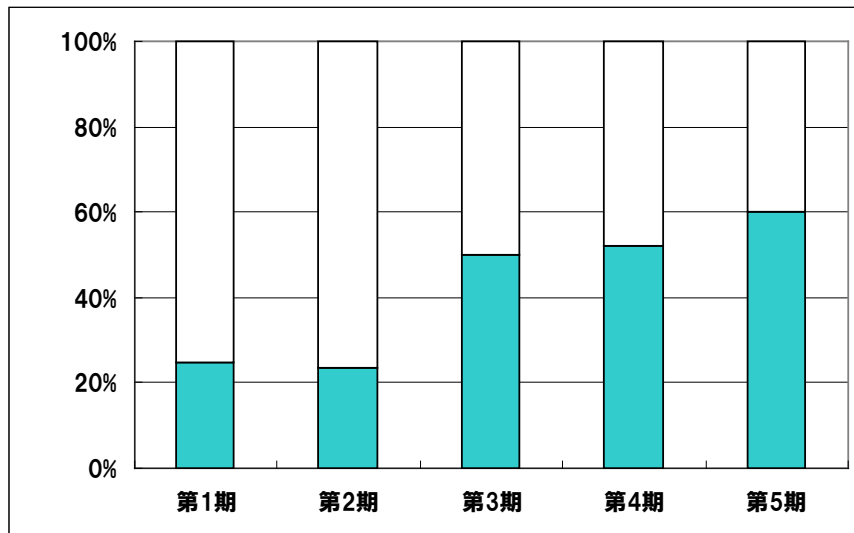


<調査の手法>

- **卒業生に一斉アンケート調査を実施(2010年11～12月)**

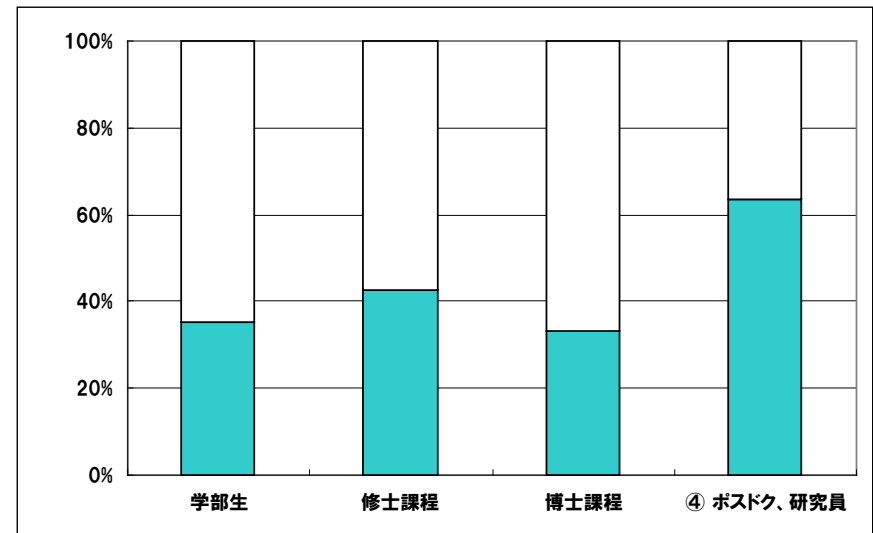
3. アンケート回収の状況

開催期毎の回収率



アンケート回収者数
アンケート送付数(メールアドレスあり)
第1期～第5期の上級コース参加者

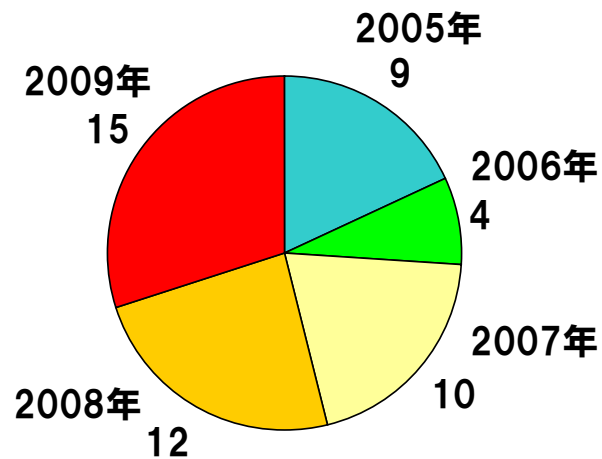
参加時の所属毎の回収率



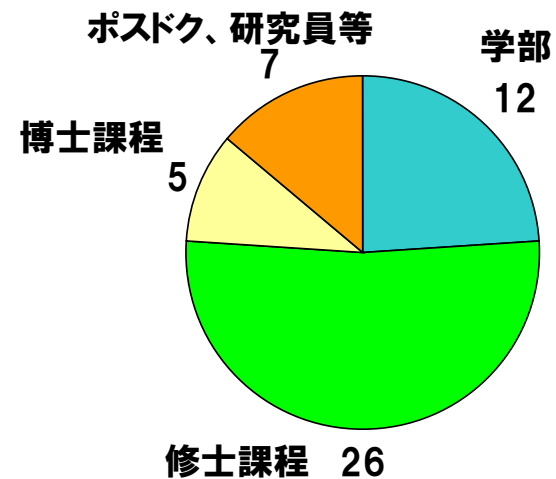
50人
98人 (アンケート送付回収率 51%)
121人 (道場参加者回収率 41%)

4. アンケート回答者の参加時期と所属

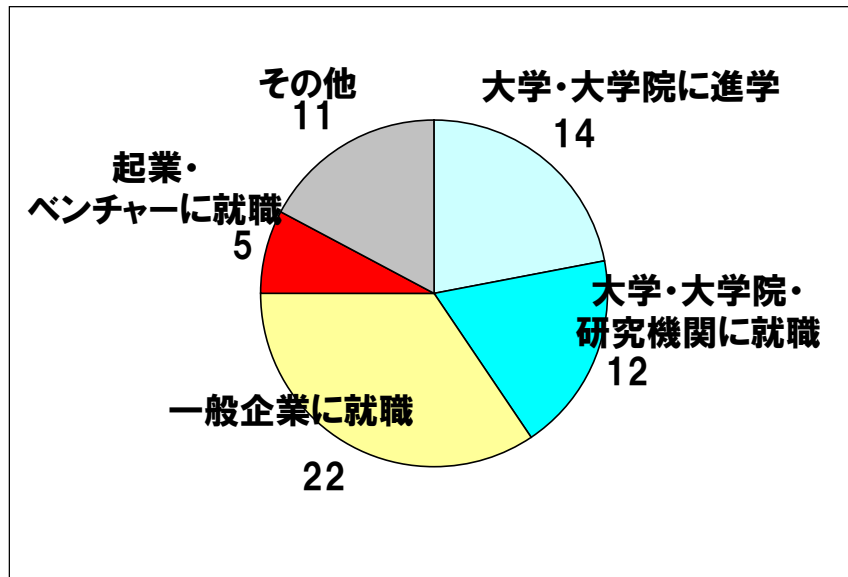
参加時期



参加時の所属



5. 道場参加者^(注1)の進路の内訳



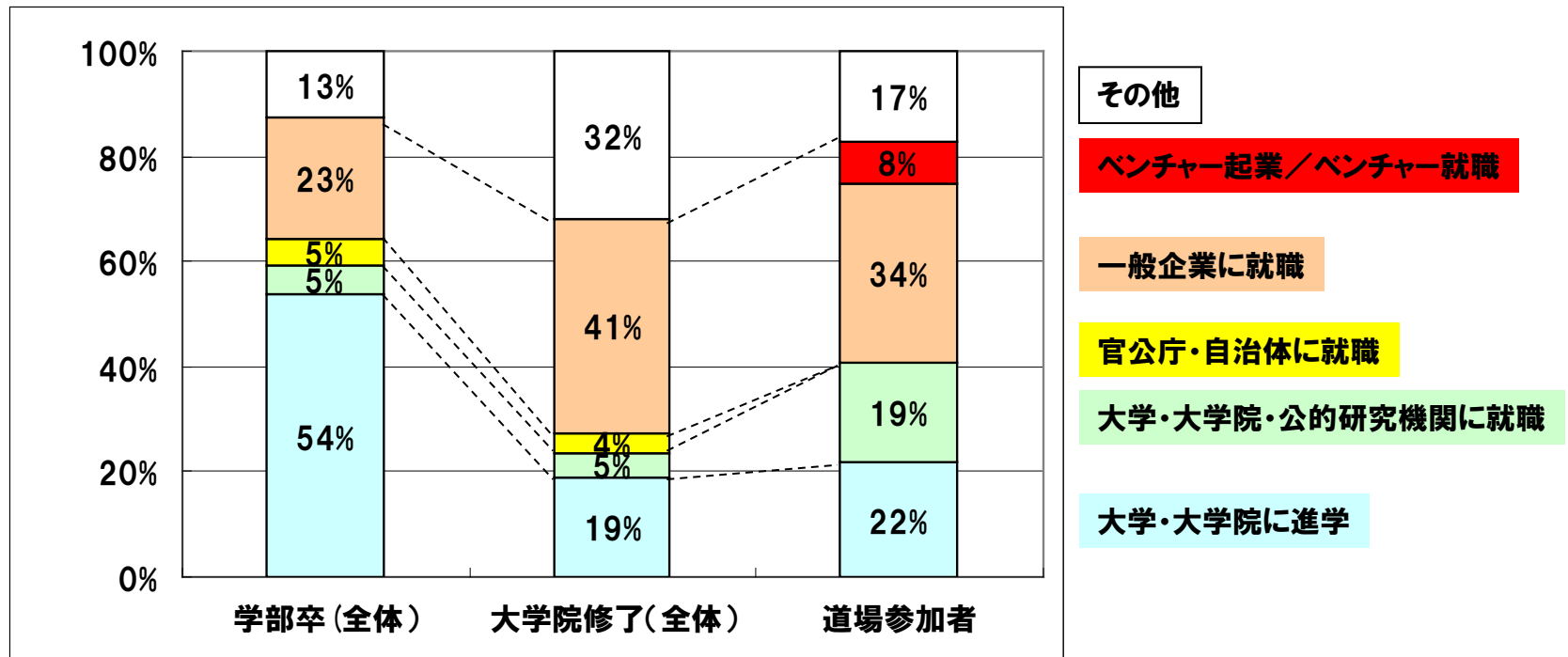
道場参加後の進路、現在の所属組織

① 国内の大学・大学院に進学	12
② 海外の大学・大学院に進学	2
③ 国内の大学・大学院・公的研究機関に就職	9
④ 海外の大学・大学院・公的研究機関に就職	3
⑤ 官公庁、地方自治体、公的機関に就職	0
⑥ 製造業の一般企業に就職	7
⑦ 情報、通信業の一般企業に就職	1
⑧ 金融、保険業関係の一般企業に就職	2
⑨ コンサルティング、シンクタンク等に就職	7
⑩ その他の一般企業に就職	5
⑪ ベンチャー企業に就職	2
⑫ ベンチャー企業を起業	3
⑬ その他(医師、デザイン関係、NGO等)	11

(注1)以下、アンケート回答者を道場参加者として議論を進める

(注2)一人で複数の進路経由(重複)回答あり

6. 参加者の進路に関する傾向(全学との比較)

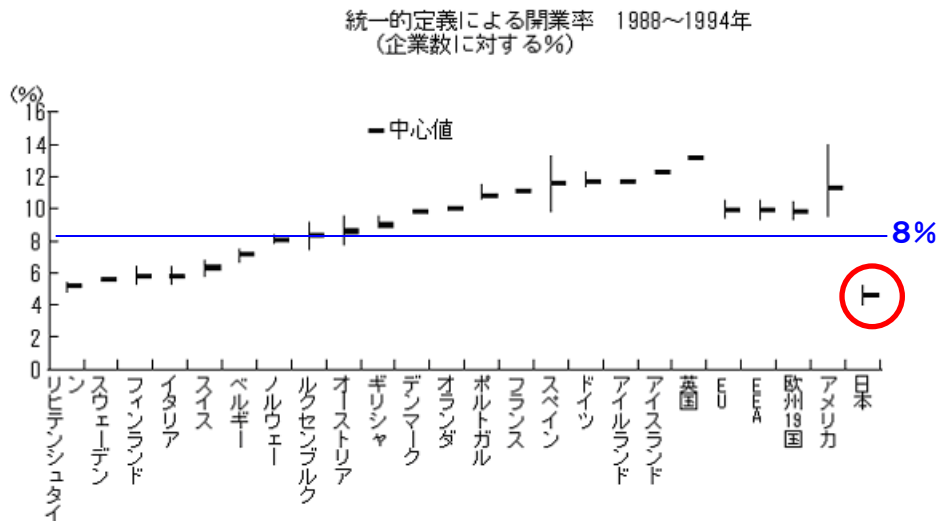


- 学部卒(全体)と大学院修了(全体)は、2009年度卒業生のデータ
- 道場参加者の比率は、学部卒1:大学院修了3(他にポスドク等)

(注)全体の進路調査では、「ベンチャー起業・就職」を質問する項目はなかった。

7. 参加者のベンチャー起業・就職比率と、一般開業率の比較

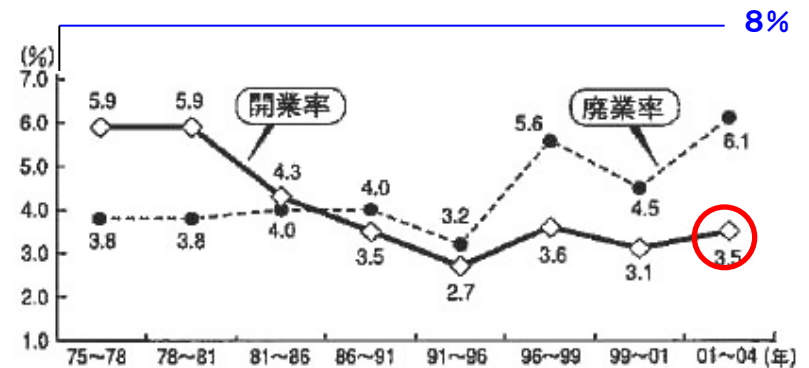
開業率の国際比較(対欧米)



資料：ヨーロッパ中小企業白書、第5次報告、1997

(注) 各国の開業・廃業の定義は統一定義と異なるため、数値は各国統計に基づいて推計し直したものである。それに伴う誤差の範囲を縦線で示している。

我が国の開業率と廃業率の推移

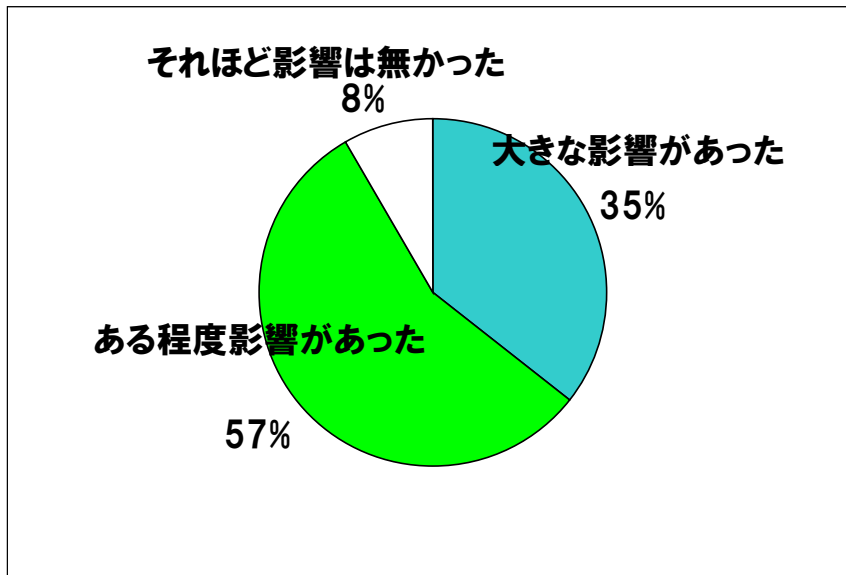


(出所)中小企業基盤整備機構
総務省「事業所・企業統計調査」再編加工より

・今回のアンケート回答者では、8%がベンチャー起業や就職に関わっている

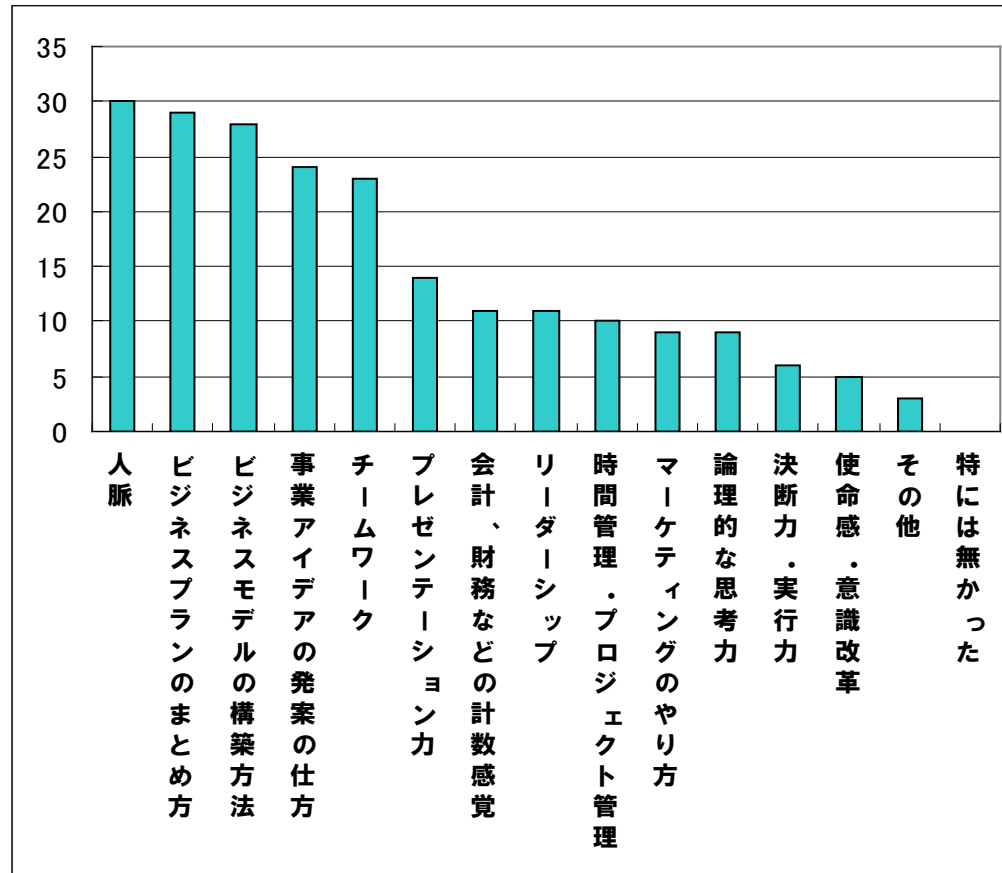
8. 道場は進路やキャリアに影響を与えたか

アンケート回答者の声



- 起業というオプションを、現実的な選択肢として捉えられた
- 来月、会社登記予定
- ベンチャーの世界に飛び込むきっかけのひとつになった
- VCに従事したいと考えるようになった
- テクノロジービジネスの支援に将来関わりたい
- 就職活動の第一志望の選択に影響を与えた
- 博士課程進学のかきかけとなった
- 計画立案、研究費用途などに生かされる
- 日本のみでキャリア形成することに限界を感じた

9. 道場で学んだことは何か



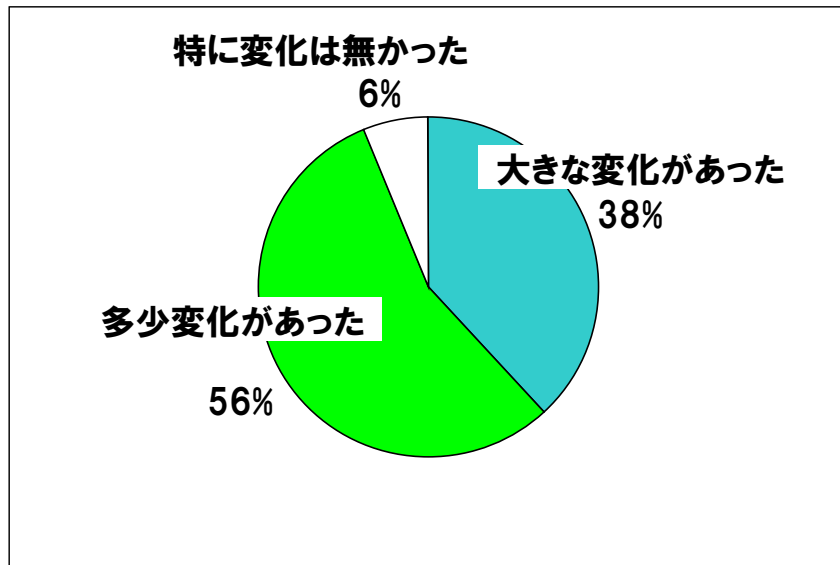
コンピテンシーによる分類

- 人的ネットワーク
(人脈)
- 認知・分析・概念化
(ビジネスプラン、モデル、アイデア等)
- マネジメント
(チームワーク、リーダーシップ等)
- 達成とアクション
(プレゼン、決断力・実行力等)

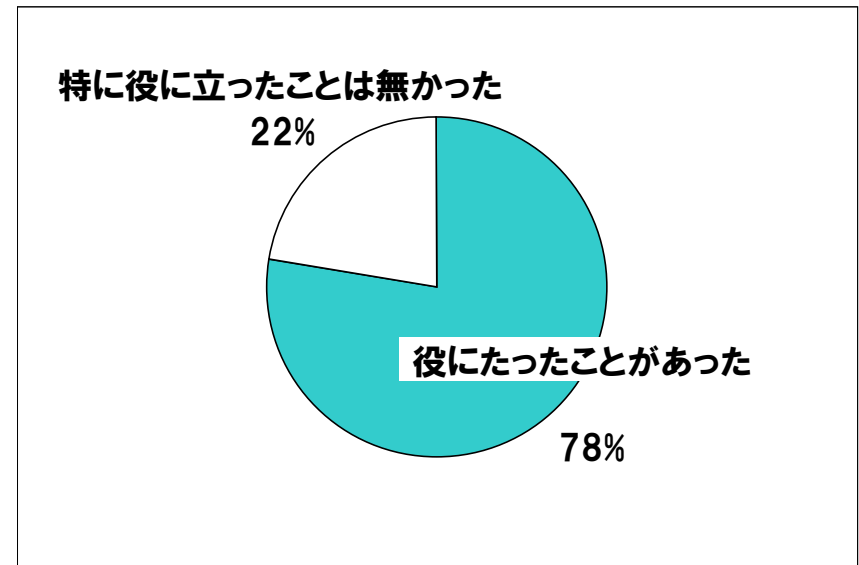
その他・・・社会における自分の立ち位置を理解して行動／北京大学との交流／審査員・投資家・顧客などで異なる評価視点

10. 意識の変化と有用性は関連しているか

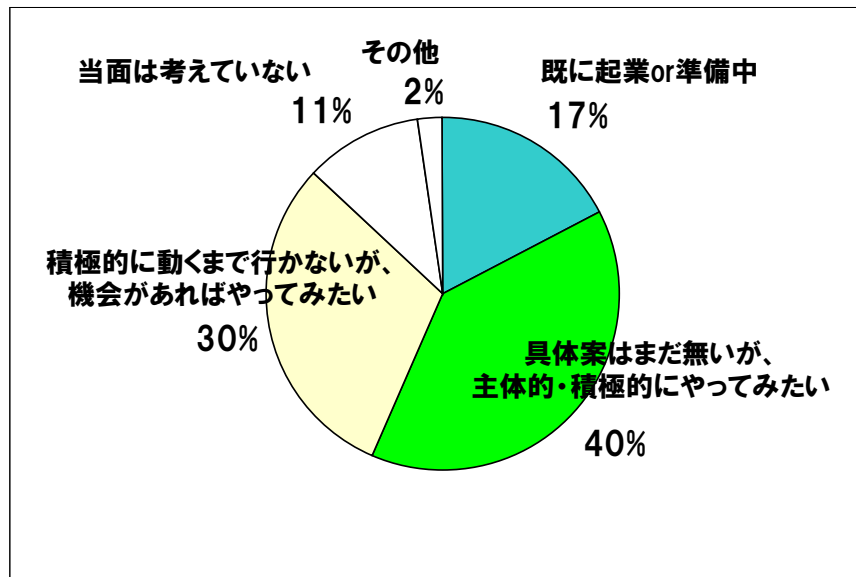
道場参加後、起業やVBに対して
意識の変化があったか



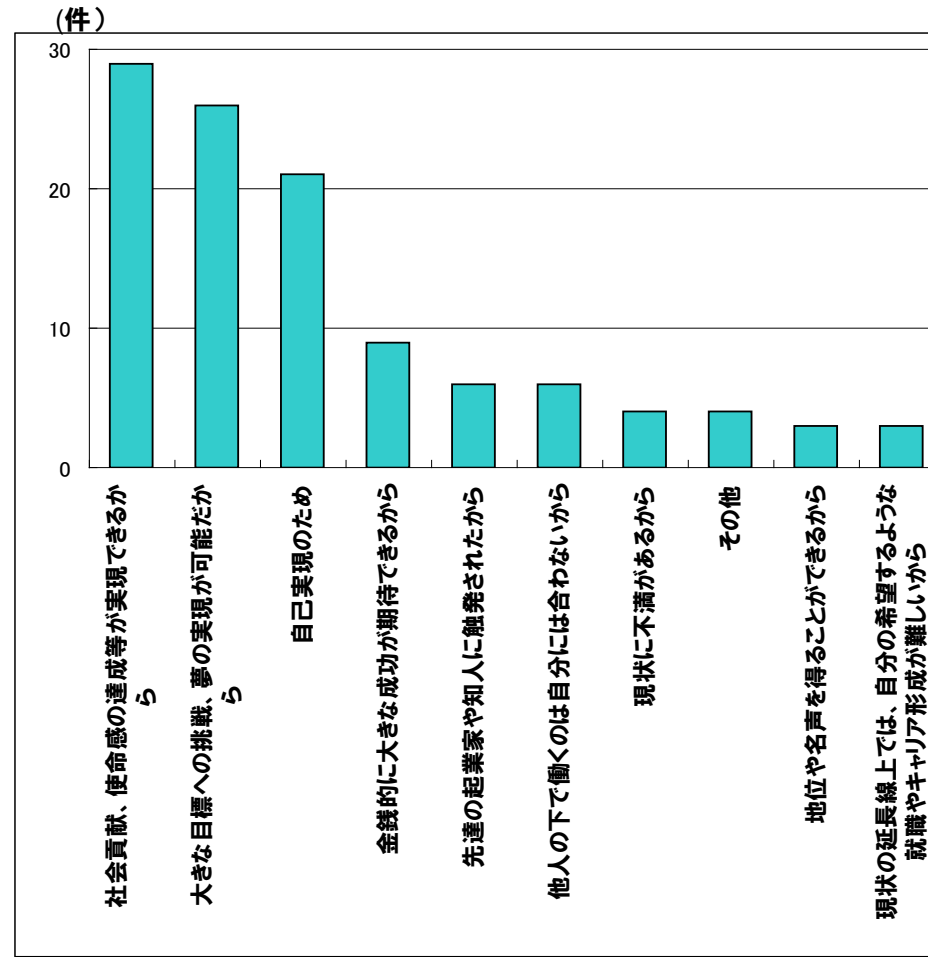
道場で学んだことで
職業・学生生活で役だったことはあるか



11. 起業やVBに関わりたいと思っているか



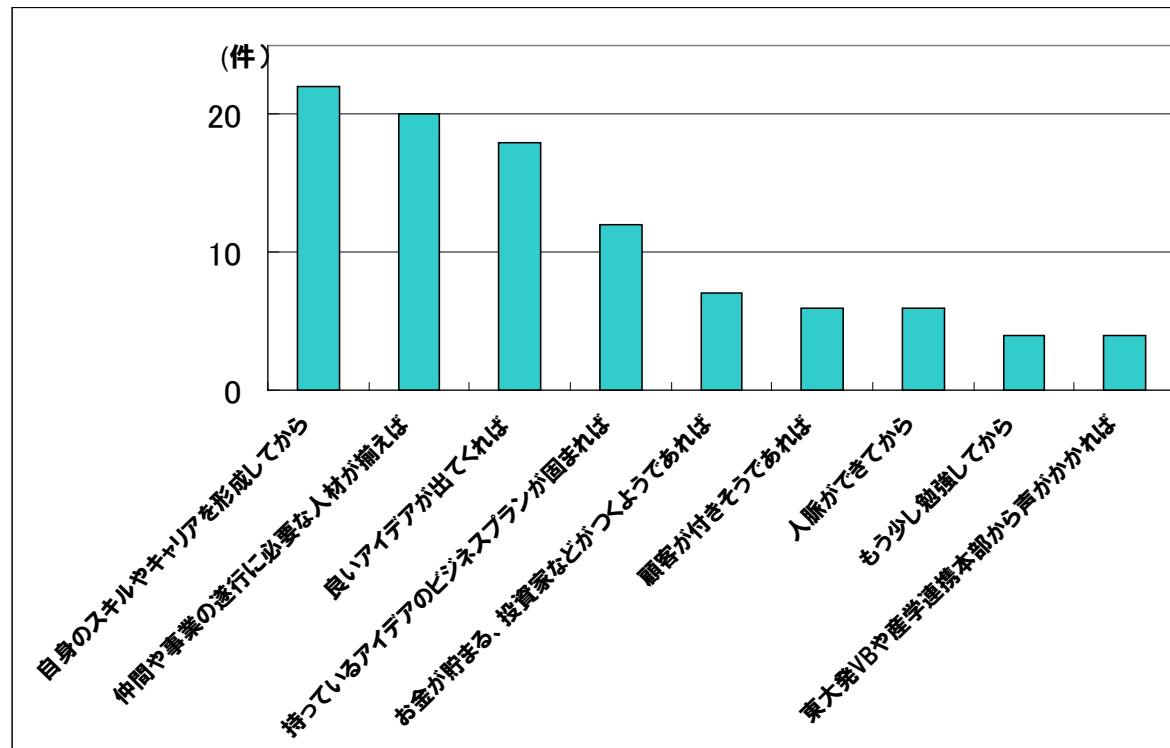
12. 起業やVBに関わりたいと考えている理由



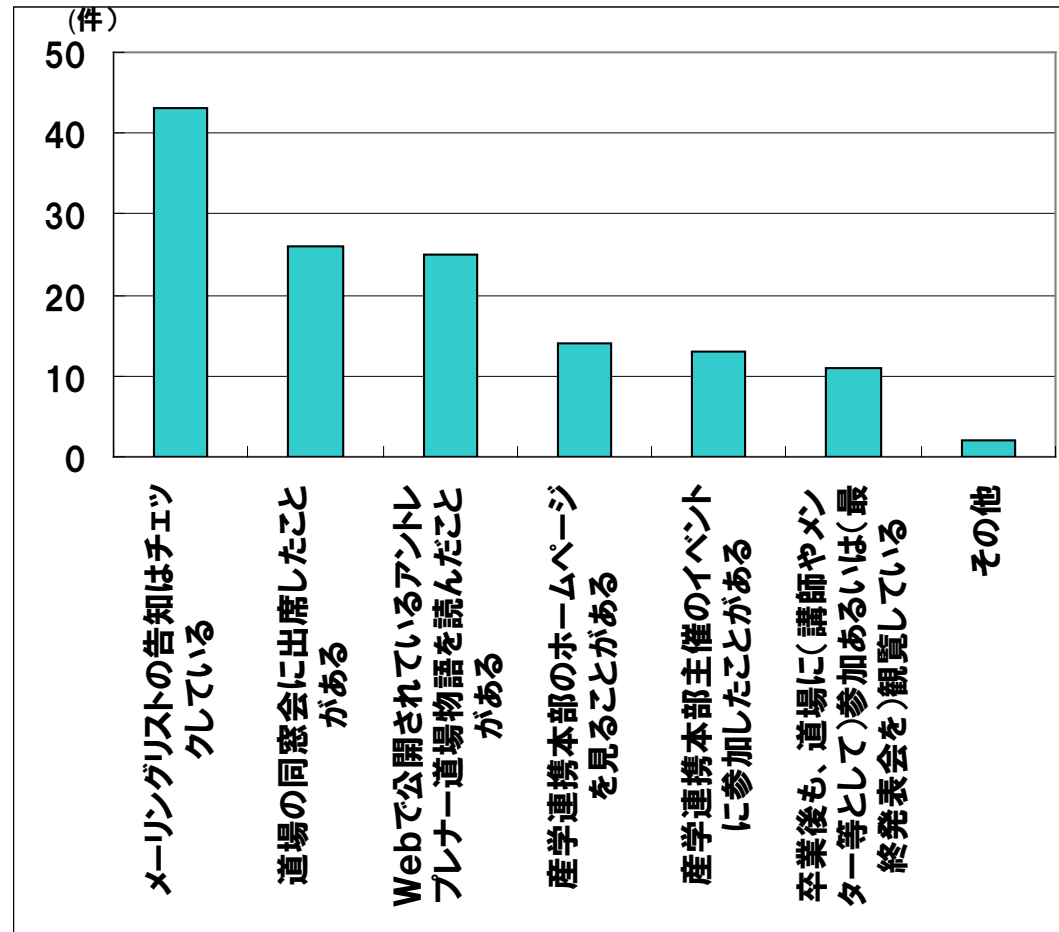
13. 起業しない理由、及びリスクについての考え方

<起業時におけるリスクについての考え方>	(件)
リスクについては、比較的楽観的に捉えている	3
リスクは感じるが、やりがい面白さ等の方が勝っている	4
リスクについては十分考慮している	3
<起業を考えていない理由>	
安定性を重視しているから	—
自分に向いていないから	—
現状に(ある程度)満足しているから	1
起業とは別にやりたいことがあるから	3
日本ではベンチャーは成功しないと思うから	—
道場に参加してリスクが大きいと分かったから	1
その他	2

14. 起業の条件は何か



15. 道場の現状に対する関心



16. 道場の運営支援に対する関心

	(件)
運営、指導、その他直接お手伝いできることがあれば、やりたい	24
道場の運営や指導は手伝えないが、何かできることがあれば検討したい	21
道場参加時の仲間や関係者とは交流していきたい	14
時間的あるいはその他の理由で、今は関ることが難しい	1
現時点では興味が低く、優先度も低い	2

17. 運営方法への意見

	(件)
実際の起業事例など、ケーススタディを充実させた方がいいと思う	18
他の大学等や企業との交流を設けた方がいいと思う	16
もっとベンチャー経営者を呼んだ方がいいと思う	13
広く一般学生に対して、起業意識を啓蒙するようなプログラムにした方がいいと思う	12
上級コースに重点を置いたプログラムの方がいいと思う	11
起業を真剣に目指す学生に的を絞ったプログラムにした方がいいと思う	7
経営論や財務の勉強など、座学での講義内容を充実させた方がいいと思う	7
もっとOB、OGを呼んだ方がいいと思う	7
単位の出るプログラムにした方がいいと思う	5

18. その他の意見・感想など

<ベンチャー起業や有用性について>

- 起業というとても遠い夢が、少し現実的になった。
- ポスドク／研究員等もコンテストや中級にどんどん参加させてほしい。現在起業を予定中(初中級参加者)。
- 研究活動においても、ベンチャー起業と類似する点はある。経験は役に立つ。
- 起業独立までいかななくても、大企業の中でもビジネス思考は必要。
- 通常の理系大学生では身につかない、ビジネスの基礎的な概念・思考が習得できた。
- 理系で参加でき、起業にはファイナンスの知識と感覚が必要だと分かった。

<道場の方法、運営等について>

- 良いプランより、実現する意思のあるプランの方が、実現可能性は高いのではないか。
- 教育的側面と支援的側面を分けると、良い企画になるのではないか。
- 単位にならなくても参加する意欲をもった参加者に囲まれていた方が、モチベーションが維持できると思う。
- 夜に講義を行ってもらって助かった。／ 土日にセミナー等開いてもらえば参加したい(初中級参加者)。
- 外部講師を招いた講座は、過去参加者も出られると良い。卒後教育で活用したい(初中級参加者)。
- 道場OBの交流イベントは続けて欲しい

19. 道場の(途中)成果と目標、課題に関するまとめ

<総合的な評価>

- ・アンケート回収者からの評価は高い
- ・意識面での評価
- ・実技面での評価
- ・その他(人脈など)

<進路>

まだ大学に残っているケースは多いが、一部起業へのステップになっている
道場6年目、回答5期は実質的に、加重平均で2.5~3年分の人的ストック
その中で、具体的な起業・ベンチャーに関わる比率が8%というのは、意味を持っている

<今後への示唆>

継続は確かに力なりと言えるのではないが
道場、産学連携本部については、卒業・修了後も強い関心興味を抱いてもらっている
教育方法としては、幅広vs深掘り、座学vsケース、単位有無など、意見の散らばりはある

<課題>

教育方法の更なる改善・試み
人的ネットワークとしての機能の強化
産学連携システム及びサイクルにおける位置づけと連携(研究、TLO、VC等)

ご静聴ありがとうございました。